

令和 4 年 6 月 5 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02466

研究課題名（和文）国際的な視野から捉える林芙美子文学の研究～ 多文化共生力 を探る～

研究課題名（英文）Study of HAYASHI Fumiko's Literature from an International Perspective:
Exploring the Power of Multicultural Conviviality

研究代表者

ソコロワ山下 聖美（SOKOLOVA-YAMASHITA, Kiyomi）

日本大学・芸術学部・教授

研究者番号：80349985

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000 円

研究成果の概要（和文）： 林芙美子文学における諸外国関連作品に関する文献（テキスト、新聞記事、雑誌記事など）の調査・発掘、また、発掘したテキストの電子データ化、テキストの解読調査、及び、足跡を探るための現地調査、シンポジウムやセミナー研究会出席、及び、翻訳、論文、及び研究書刊行により、研究成果の発信・普及を行う。以上、3つのプロセスを通して、林芙美子が文学の中に描いた「多文化共生力」を見出し、国際的な視点から林芙美子文学の受容を考察することができた。また、日本文学がもつグローバル化への可能性を掘り起こし、世界への日本文化発信力を文学の中に見出していくことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の林芙美子研究においては、作品の全貌が未だ把握されていなくテキストの発見と整備が課題となっていたが、本研究において、インドネシアとロシア関連のテキストの整備と公開をすすめることができた。また、戦争協力作家としての否定的なイメージが先行し、作品の深い解釈や再評価が必要されていた課題について、本研究においては、彼女のグローバル性を見出し、新たな知見を論文や国際シンポジウムを通して国内外に発信することができた。以上のことから、本研究は学術的・社会的意義を十分に達成することができた研究であったと確信している。

研究成果の概要（英文）：1) Research and excavation of literature on HAYASHI Fumiko's works related to foreign countries and digitalization of the excavated texts; 2) Deciphering and research of the texts and field research to trace the footprints; 3) Attendance at symposia and seminars, translation, publication of articles, and research books; and publication of the research results. Through these 3 processes, I was able to discover the "multicultural conviviality" that HAYASHI Fumiko's portrayed in her literature and to examine the reception of her literature from an international perspective. I am also able to uncover the potential of Japanese literature for globalization and discover in literature the power to transmit Japanese culture to the world.

研究分野：日本近代現代文学

キーワード：日本文学 林芙美子 インドネシア 多文化共生 ロシア

1．研究開始当初の背景

（１）林芙美子研究においては、文学研究の根幹となるはずの全集に全作品の一部しか収録されておらず、また、未収録作品のテキストそのものは劣化がすすんでいる。つまり、作品の全貌が未だ把握されていない。この課題に関しては、廣畑研二校訂『林芙美子 放浪記復元版』（２０１２年）や、野田敦子編『ピッサンリ』（２０１３年）により、地道な調査成果が世の中に発表されはじめている。筆者もまた、作品発掘につとめ、「林芙美子単行本一覧（戦前篇）」「林芙美子の単著目録」などのリスト作成を行いながら、劣化したテキストの保存、電子化作業をすすめている。一方で、高齢に達した、林芙美子を直接知る人々からの聞き取りをまとめ、従来の伝記の補充作業を行っている。

（２）戦争時期、とくにインドネシアなどの南方従軍に関する足跡や作品に不明な部分が多い。つまり、戦争協力作家としての否定的なイメージが先行し、作品の深い解釈や現代における林芙美子作品の再評価がなされていない。この課題点については、神谷忠孝、木村一信編『南方徴用作家 戦争と文学』（１９９６年）や望月雅彦『林芙美子とボルネオ島 南方従軍と「浮雲」をめぐる』（２００８年）などの研究成果を参考にしつつ、「林芙美子文学から見る近現代アジア諸国の研究」（科学研究費助成事業基盤研究C ２０１２～２０１６年）において調査を展開してきた。

2．研究の目的

本研究においては、戦争という時代背景の中に活躍した作家・林芙美子を新たに国際的な視点で捉え直すことにより、文学が描いた「多文化共生力」を明らかにしていく。戦前、戦中、戦後を通して、東南アジア諸地域、中国大陸、台湾、ロシア、ヨーロッパなど、多くの国を訪れ、自らを「コスモポリタン」と自称していた林芙美子は、世界の中でたくましく生き抜き、異文化を吸収し、作品へと昇華していた。その詳細を、テキスト及び史料の発掘、芙美子が滞在した現地調査、テキスト解読を通じ、明らかにしていく。各国の次世代を担う文学研究者と連携し、国際的な視点から林芙美子文学の受容を考察することで、日本文学がもつグローバル化への可能性を掘り起こし、世界への日本文化発信力を文学の中に見出していくことを目的とする。

3．研究の方法

（１）林芙美子文学における諸外国関連作品に関する文献（テキスト、新聞記事、雑誌記事など）の調査・発掘を行う。また、発掘したテキストの電子データ化、作品リスト化を行う。

（２）テキストの解読調査、及び、足跡を探るための現地調査を行う。

（３）シンポジウムやセミナー研究会開催によって、研究情報の交換、及び研究成果の発信を行う。翻訳、論文、及び研究書刊行により、研究成果の発信・普及を行う。

4．研究成果

（１）文献の調査・発掘及びテキストの電子データ化……平成２９、３０年度には、インドネシア国立図書館において１９２０年代から４０年代にかけての日本語で書かれた新聞の調査を行った。林芙美子についての記事を見つけることが目的であるが、劣化が著しい貴重な新聞そのものの保存とデータ化を同時に行った。調査については「インドネシア国立図書館とランブンマンクラ大学を訪れて」（「日藝ライブラリー」４号 ２０１８年２月）に報告した。また、平成３０年度には樺太の地における異文化交流を描いたエッセイ「樺太の旅」のロシア語翻訳のデータ整理を行った。令和元年度には、国会図書館などで文献を調査しつつ、ロシア国立アカデミー図書館にて資料調査を行った。一方で、全集未収録の林芙美子作品（とくにインドネシアについて描いたもの）の打ち込み済みテキストについて、公開にそなえ、旧字の統一作業を行った。令和２、３年度には、国内においての資料収集に専念し、また、電子データベースなどを駆使し、情報収集を集中的に行った。一方で、従来収集していた史料について分類・整理・修復作業などを行った。

（２）現地調査……平成２９年度においては、シベリアにおける多文化共生を描いたエッセイ『三等旅行記』に描かれるルートの確認調査のため、シベリア横断の列車移動を行った。また、林芙美子「樺太への旅」のロシア語翻訳にあたり、ユジノサハリンスクの研究者との打ち合わせを行った。平成３０年度には、『三等旅行記』に描かれるロシアについて、知識の確認のためのインタビューを、ロシア科学アカデミーピョートル大帝記念人類学・民族学博物館、及びサンクトペテルブルク国立文化大学の研究者に行った。また、インドネシアのランブンマンクラ大学の研究者からは、林芙美子「ボルネオダイヤ」の時代のバンジャルマシンについての聞き取りを行った。令和元年度にはロシアのいくつかの研究施設（ロシア国立アカデミー図書館、ロシア科学アカデミーピョートル大帝記念人類学・民族学博物館、サンクトペテルブルク国立文化大学、ド

ストエフスキー文学記念博物館)にて知識の提供を乞うインタビュー、資料閲覧を行い、研究者同士の意見交換も行い、研究計画のさらなる発展の未来図を描くことができた。新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、研究者間で企画したシンポジウムは残念ながら本研究期間内には実行することができなかったが、時を待ち、かたちにしていきたい。

(3)研究成果の発信・普及……平成29年度には、論文「林芙美子文学におけるロシアへのまなざし」(「日本大学芸術学部紀要」66号 2017年11月)を発表した。また、口頭発表として、「林芙美子「雷鳥」に描かれたサハリン」(サハリン作家協会50周年シンポジウム「サハリンとクリル列島の文学 新視点と未来」2017年12月1日 サハリン国立総合大学)、「バンジャルマシンと林芙美子の文学」「日本文化を体験しよう」(2017年8月8、9日 ランブンマンクラ大学)“Martapura River described by Japanese writer Fumiko Hayashi”(International Seminar on Indonesian Literature“Literature and The Beautiful River City” 2017年12月8日)、「バダンを描いた林芙美子の文学」(アングラス大学人文学部日本語学科特別講義 2018年3月29日)を行った。平成30年度には、論文「日本軍政下インドネシアにおける林芙美子の文化工作～ジャカルタにおける足跡の紹介とともに～」(日本大学芸術学部紀要68号、2018年10月)「林芙美子が記述した1930年代の敷香」(サハリン科学アカデミー紀要3号 2018年)などを発表した。また、口頭発表として「日本文学に影響を与えたロシアの作家～日本の女性作家・林芙美子とロシア～」(サンクトペテルブルク国立文化大学公開講座 2018年11月3日)「林芙美子の文学における多文化共生の思想」(タイ国日本研究国際シンポジウム2018(主催:チュラロンコン大学)2018年8月25日)「林芙美子文学の魅力～大陸魂を持つ女～」(世田谷文学館友の会公開講座 2018年5月22日)「林芙美子と『ボルネオ新聞』」(平成30年度日本大学学部連携研究スタートアップ研究シンポジウム「20世紀前半における日本の『南進』メディアと日本人社会」(2019年3月1日)などを行った。令和元年度には、論文「林芙美子が描いた女たち ロシア編 ～大地の力を持つ女～」(藝文攷25号 2019年12月)、「ロシアを描いた林芙美子の短編小説「トラंक」を読む～男が越えたもの、女が越えたもの～」(日本大学芸術学部紀要70号 2019年11月)などを発表した。また、口頭発表として「文学から探る 多文化共生」(コミュニケーション教育学会第10回研究発表会 2020年1月25日)、「海を越える日本文学 村上春樹と林芙美子」(サハリン州立図書館主催シンポジウム The World of Haruki Murakami 2019年9月18日)などを行った。令和2年度には、論文「林芙美子「作家の手帳」を読む～多時代共生空間の創出～」(「芸術学部紀要」72号 10月 日本大学芸術学部)を発表した。口頭発表として、「日本の作家・林芙美子が描いたチェーホフの思想」(国際シンポジウム「サハリン島～21世紀のA.P.チェーホフ」9月15日「A.P.チェーホフ」サハリン島文学記念館)をオンラインにて報告した。また、冊子「林芙美子とサハリン」の監修を行い、林芙美子がもつ多民族に対するまなざしを、作品「樺太への旅」を通して明らかにし、発信した。令和3年度には、論文「林芙美子と大泉黒石 - 異文化を内包する作家たち - 」(「藝文攷」27号 2020年1月 日本大学大学院文芸学専攻)を発表した。また、口頭発表として「日本におけるドストエフスキーの文学作品の受容と発展」(坂下将人との共同発表)(ノヴゴルド地域総合図書館主催ドストエフスキー生誕200年事業 11月1日)をオンラインにて報告し、ドストエフスキーから影響を受けた林芙美子作品の世界性をあぶりだした。さらには、単著『林芙美子とインドネシア 作品と研究』の版下までを完成させており、2022年度内には刊行予定である。本書においては、本研究にて発表してきた論文などをさらに推敲して掲載しているのと同時に、研究期間に発見、テキスト打ち込みを行った全集未収録の林芙美子作品(とくにインドネシアについて描いたもの)を公開している。本書が刊行されることにより、本研究の成果が広く社会に公開される予定だ。

以上のように、(1)(2)(3)の研究の方法を通して、それぞれの成果を得ることができた。令和2年度からは新型コロナウイルスの世界的な流行により、研究計画が一部頓挫し、一年の延長期間を設けつつ、研究活動を国内に限って遂行せざるを得なかったが、収集した文献や史料のさらなる読み込みや、積み重ねた成果を振り返り、新たなる知見のもとにまとめる作業に専念できた。一方で、コロナ流行以前に、林芙美子作品から見出すことができた「多文化共生」の思想について、海外のシンポジウムなどで精力的に研究報告を行ったことで、日本文学がもつグローバル化への可能性を掘り起こし、世界への日本文化発信力を文学の中に見出していくという目的を果たすことができたことを確信している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 6件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山下聖美	4. 巻 72
2. 論文標題 林芙美子「作家の手帳」を読む～多時代共生空間の創出～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本大学芸術学部紀要	6. 最初と最後の頁 5-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下聖美	4. 巻 25
2. 論文標題 林芙美子が描いた女たち ロシア編～大地の力を持つ女～	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 藝文攷	6. 最初と最後の頁 126-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下聖美	4. 巻 70
2. 論文標題 ロシアを描いた林芙美子の短編小説「トランク」を読む～男が越えたもの、女が越えたもの～	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本大学芸術学部紀要	6. 最初と最後の頁 5-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下聖美	4. 巻 3
2. 論文標題 林芙美子が記述した1930年代の敷香	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 サハリン科学アカデミー紀要	6. 最初と最後の頁 128-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 山下聖美	4．巻 68
2．論文標題 日本軍政下インドネシアにおける林芙美子の文化工作～ジャカルタにおける足跡の紹介とともに～	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本大学芸術学部紀要	6．最初と最後の頁 5-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 山下聖美	4．巻 66
2．論文標題 林芙美子文学におけるロシアへのまなざし	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本大学芸術学部紀要	6．最初と最後の頁 5-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 山下聖美	4．巻 4
2．論文標題 インドネシア国立図書館とランブンマンクラ大学を訪れて	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日藝ライブラリー	6．最初と最後の頁 38-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 ソコロワ山下聖美	4．巻 27
2．論文標題 林芙美子と大泉黒石 - 異文化を内包する作家たち -	5．発行年 2022年
3．雑誌名 藝文攷	6．最初と最後の頁 68-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 8件）

1．発表者名 山下聖美
2．発表標題 日本の作家・林芙美子が描いたチェーホフの思想（ビデオ発表）
3．学会等名 国際シンポジウム「サハリン島～21世紀のA.P.チェーホフ」「A.P.チェーホフ」サハリン島文学記念館（国際学会）
4．発表年 2020年

1．発表者名 山下聖美
2．発表標題 文学から探る 多文化共生
3．学会等名 コミュニケーション教育学会
4．発表年 2020年

1．発表者名 山下聖美
2．発表標題 海を越える日本文学 村上春樹と林芙美子
3．学会等名 サハリン州立図書館主催シンポジウムThe World of Haruki Murakami（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 山下聖美
2．発表標題 林芙美子と『ボルネオ新聞』
3．学会等名 平成30年度日本大学学部連携研究スタートアップ研究シンポジウム「20世紀前半における日本の『南進』メディアと日本人社会」
4．発表年 2018年

1．発表者名 山下聖美
2．発表標題 想像を超える現象としてのドストエフスキー～文芸批評家・清水正の仕事～
3．学会等名 第43回国際ドストエフスキー研究集会（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 山下聖美
2．発表標題 日本文学に影響を与えたロシアの作家～日本の女性作家・林芙美子とロシア～
3．学会等名 サンクトペテルブルク国立文化大学公開講座（招待講演）
4．発表年 2018年

1．発表者名 山下聖美
2．発表標題 林芙美子の文学と日本の食
3．学会等名 Studium Generale "Promoting Culture,Literature, and Arts of japane and Indonesia to Strenhen Cooperation in Education"（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 山下聖美
2．発表標題 林芙美子の文学における多文化共生の思想
3．学会等名 タイ国日本研究国際シンポジウム2018（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 山下聖美
2．発表標題 バンジャルマシンと林芙美子の文学
3．学会等名 Studium Generale on Language ,Literature,and Arts (招待講演)
4．発表年 2017年

1．発表者名 山下聖美・伊藤景
2．発表標題 日本文化を体験しよう
3．学会等名 Studium Generale on Language ,Literature,and Arts (招待講演)
4．発表年 2017年

1．発表者名 山下聖美
2．発表標題 林芙美子「雷鳥」に描かれたサハリン
3．学会等名 サハリン作家協会 5 0 周年シンポジウム「サハリンとクリル列島の文学 新視点と未来」(国際学会)
4．発表年 2017年

1．発表者名 山下聖美
2．発表標題 Martapura River described by Japanese writer Fumiko Hayashi
3．学会等名 International Seminar on Indonesian Literature"Literature and The Beautiful River City" (招待講演) (国際学会)
4．発表年 2017年

1．発表者名 山下聖美
2．発表標題 パダンを描いた林芙美子の文学
3．学会等名 アンダラス大学人文学部日本語学科特別講義（招待講演）
4．発表年 2018年

1．発表者名 ソコロワ山下聖美 坂下将人
2．発表標題 日本におけるドストエフスキーの文学作品の受容と発展
3．学会等名 ノヴゴルド地域総合図書館主催ドストエフスキー生誕200年事業（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	イコンニコワ エレナ (Iconnikova Elena)	サハリン国立総合大学	
研究協力者	スーシ - オング (Ong Susy)	国立インドネシア大学	
研究協力者	デヴィ ブスピタ フィトリアナ (Dewi Fitriana)	国立ブラビジャヤ大学	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国		相手方研究機関		
ロシア連邦	サハリン国立総合大学			
インドネシア	ランブンマンクラ大学			